

2009

EXHIBITION SCHEDULE

アート&デザインセンター 展覧会スケジュール

Open 12:00-18:00
(最終日は17:00まで) 日曜祝日休館

[入場無料]となてもご覧いただけます。
スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。



名古屋芸術大学

B!e

2009 Vol. **24**
ART & DESIGN CENTER NEWS

- 4/ 3金 → 4/15水 デザイン学部レビュー選抜展
- 4/17金 → 4/22水 乙女展
- 4/17金 → 4/22水 俺展
- 4/17金 → 4/22水 その日の夜、夜空に現れた木星と金星と三日月は既に笑顔をつくっていなかったんだ!
- 4/24金 → 5/ 6水 game boys
- 4/24金 → 5/ 6水 私のシルクロード
- 5/ 8金 → 5/13水 写真部展
- 5/ 8金 → 5/13水 AOBÉ
- 5/15金 → 5/20水 書道演習作品展
- 5/15金 → 5/20水 peace nine '09
- 5/23土 → 6/ 2水 2009年度企画展
映像メディアのコンテキスト —mediaselect 2009
- 6/ 5金 → 6/10水 FROM REMISEN #11
- 6/12金 → 6/17水 名古屋芸術大学教員展
- 6/19金 → 6/24水 インプロヴィゼーション
- 6/19金 → 6/24水 reconstruction
- 6/19金 → 6/24水 Coming-out 1
- 6/26金 → 7/ 1水 洋画2コース選抜展
- 7/ 3金 → 7/ 8水 名古屋芸術大学前期交換留学生作品展
- 7/ 3金 → 7/ 8水 マット・ソンス個展
- 7/10金 → 7/29水 2009年度企画展
模型で見るミュージックシーン
- 7/31金 → 8/ 5水 素材展
- 8/ 6木 → 9/14月 夏期休館
- 9/15火 → 9/19土 一人称展
- 9/24木 → 9/30水 To soft sculpture
- 10/ 2金 → 10/ 7水 フィリップ・ブース 2002-2009, A JAPANESE RETROSPECTIVE
- 10/ 9金 → 10/14水 JAGDA新人賞受賞作家作品展2009
- 10/16金 → 10/21水 境界から見えるモノ
- 10/23金 → 10/28水 大学院洋画制作展
- 10/30金 → 11/ 4水 美術学部コース展 (仮称)
- 11/ 6金 → 11/11水 新世代ガラス展/G.E.N
- 11/13金 → 11/18水 彫刻AB展
- 11/20金 → 11/25水 遭遇するドローイング'09展 Erwin Regl,伴野祥久,栗木義夫,長谷川直美
- 11/27金 → 12/ 2水 MCD & a デザイン学部メディアコミュニケーション デザイン&アート展
- 12/ 4金 → 12/ 9水 名古屋芸術大学後期交換留学生作品展
- 12/ 4金 → 12/ 9水 幼稚園児たちのゲイジツ展
- 12/11金 → 12/16水 工芸選択コース作品展
- 12/26土 → 1/ 7水 冬期休館
- 1/ 8金 → 1/13水 日本画3年作品展
- 1/15金 → 1/20水 洋画3年油画展
- 1/26火 → 2/ 2水 AFTER REMISEN#11 柴田麻衣+平田あすか

編集後記

何かを成し遂げるためには、強い意志を持ち続けることが大切だと思います。それは時にとてつもなく時間がかかってしまうかもしれませんが、それでも自分が本当にやりたいことはあきらめずに邁進して欲しいと思います。

春は旅立ちの季節です。私も、創刊号より6年間にわたって担当して参りました本誌『B!e』の編集を、本号を持ちまして終えることになりました。非力ながらなんとか24号まで発行させていただきましたのは、ご執筆いただきました皆さま、取材させていただいた皆さま、支えてくださった多くの皆さまのおかげです。この場を借りて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

B!e Vol.24
発行日 2009年3月25日
編集 江坂恵里子(アート&デザインセンター)
発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西65番地
Tel.0568-24-0325 Fax.0568-24-0326(代表)
Tel/Fax. 0568-24-2897 (直通)
E-mail adc@nua.ac.jp
URL http://www.nua.ac.jp
デザイン 岩田知人(サンメッセ株式会社)
印刷 サンメッセ株式会社
2009 Printed in Japan
© Art & Design Center, Nagoya University of Arts



最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄犬山線(地下鉄輕井線乗り入れ)
徳重-名古屋芸大駅下車西へ約1000m徒歩15分
※急行・準急電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください
中部国際空港からも名鉄犬山線をご利用ください
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります

自動車をご利用の場合
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分。

ビジュツの 達人に なるために

—卒業生と今までの道のり—

美術とは、いうまでもなく造形のことばによるコミュニケーションの手段である。21世紀の美術動向を特徴づけるのは、時代を導く美の理想や規範なりが消失し、さまざまな美術が序列なく同居していることだといえる。古典であれモダンであれ、既存の美意識に寄り添うもの、工芸やデザイン、マンガ、アニメなどの隣接する領域との交流の中でヴィヴィッドな生の息吹を喚起するもの、社会に強くメッセージを投げかけるもの、美術とは何かを概念的に問ひかけるものなど、その多様性は枚挙に暇がない。

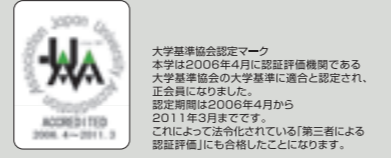
美術の状況がどれほど混沌としていようと、ビジュツの達人になるためには、文章やスポーツの達人と同じように、基礎的な技術や作法に習熟することがまずは必要である。素材の特質を理解し、眼や手の修練を重ね、過去の芸術との対話の中から平面、空間に対する感覚を鋭敏にしたりすること、さらには、文化の動向ならびに社会や世界に対する理解や関心を高めるなどして人間性を高めることも重要になることであろう。そのようにして形作られた跳躍台の上でなされる自己表現の場として卒業制作があるのである。改めて自分の芸術を見つめ直し、さらにレベルアップする場として大学院も用意されている。

さて、その後アーティストへの階段を昇っていくには何が必要になってくるのであろうか。自らの資質に適した活動の場の選択と作家意識の向上が成功のカギを握るといってよい。公募団体に所属するにせよ、独立した作家活動を行うにせよ、プロのアーティストとして活動するためには、当然ながら自分の作品は他者の眼にさらされ厳しい評価の洗礼を受けることになる。作品自体がもともと能弁に語ってくれるとはいえず、インパクトのあるポートフォリオを作成するほか、現代の美術動向の中での自分の立場、自分の仕事の意義を画廊や学芸員たちに理解してもらう言葉も必要となってこよう。

こういってしまうと、アーティストへの道のりはいささか遠いものにも思えるかもしれない。でも、20代の意欲的な若き先輩たちが現実に公募展で活躍したり、さまざまな展覧会に選抜されたりしていることは心強い。ここでは本学卒業生の昨年から今年にかけての活躍のごく一端を紹介しておこう。

- 名知聡子(1982生)「Project N32」(2008年 東京オペラシティ・アートギャラリー)
- 荒木由香里(1983生)「眼差しと好奇心 Vol.5」(2009年 Soka Art Center, 台北)、
アーツチャレンジ2009(2009年愛知芸術文化センター)
- 真坂亮平(1980生)「TWS-Emerging 114」(2009年 東京ワンダーサイト本郷)

ところで、皆さんは萬鉄五郎の《裸体美人》(1912年、東京国立近代美術館)という作品をご存知だろうか。東京美術学校の卒業制作でありながら現在重要文化財に指定されている近代美術の名作である。ところがなんと、卒業制作の席次はギリから4番目だったそうだ。時代と自分とのずれは常に存在するものである。開かれた柔軟な姿勢を保ちつつも、あくまで自分を信頼し、とことん突き進んでいってくださることを心から願っている。 美術学部美術文化コース 准教授 栗田秀法(西洋美術史)



大学基準協会認定マーク
本学は2006年4月に認定評価機関である
大学基準協会の大学基準に適合と認定され、
正会員になりました。
認定期間は2006年4月から
2011年3月までです。
これによって法令化されている「第三者による
認定評価」にも合格したことになります。



会場の様子(愛知県美術館)写真:山田亘



会場の様子(名古屋市民ギャラリー矢田)

特集

アーティストへの道

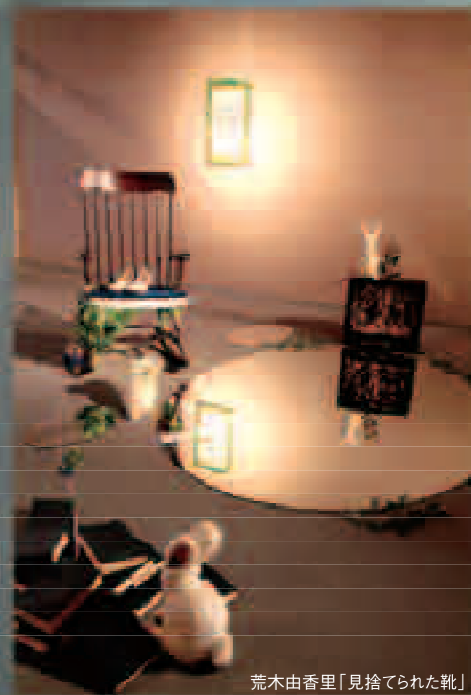
2008年度卒業制作展

2009年2月24日—3月1日まで愛知県美術館、矢田市民ギャラリー、本学西キャンパス内において第36回名古屋芸術大学卒業制作展が開催されました。ここで4年間の成果を発表し、それぞれの活動の道を歩んでいきます。

この春、本学卒業生が参加している展示会をピックアップしてみました。卒業制作展は、まさにこれまでの成果とこれから向かう道への第一歩といえるでしょう。今回で3回目となるアーツチャレンジで選ばれた3名の卒業生は、卒業後も制作の環境を整えながら、社会に向けて発信を続けてきた結果だと思えます。TWS-EMERGINGはすでに本学から何名か選出されている東京ワンダーウォールの入賞を経て得ることができる次のステップでもあります。outopos Gallery APAでは、もともと外部での発表に力を入れていた版画研究室の卒業生による企画の提案から始まった展示会です。彼らはそれぞれ「ビジュツの達人」への長い道のりを歩み始めたばかりです。この先決して平坦な道ではないでしょうが、たくさんの出会いや出来事を糧に歩いていってほしいと願います。



和田典子「A girl's room」



荒木由香里「見捨てられた靴」



荒川美由喜「彼女はそれを眺めていた」

アーツチャレンジ2009

2009年2月17日—3月1日
愛知から世界へ羽ばたくアーティストの輩出を目指して、新進アーティストを支援し活動発表の場を提供することを目的とした愛知県、中日新聞社、NHKなどが主体となって運営するプログラム。一昨年の名知聡子、昨年の野尻綾希子に続き、今回も本学の卒業生が3名選出されました。今後の活躍が楽しみです。

写真:山田亘



outopos Gallery APA

2009年2月6日—2月22日
出品作家それぞれが outopos(オートポス/ユートピアの語源)「どこでもない場所」を表現しています。この展示会はフリーランスキュレーター田中由起子氏による企画展で、6名の作家が参加しています。本学から参加している柴田麻依、平田あすか、石田典子、伊藤里佳はすでに国内外で展示会やワークショップなどを多数開催し、卒業後も積極的な制作活動・発表を続けています。



真坂亮平「オニガワラウ」

東京ワンダーサイト本郷 TWS-EMERGING

2009年2月14日—3月8日
東京ワンダーサイト(TWS)による若手支援・育成のプログラムのひとつとして、東京ワンダーウォール(TWW)と連携したプログラム。本年度は2007年度のTWWに入選した本学卒業生の真坂亮平を含む19名が選ばれ、個展が開催されました。選ばれたアーティストたちは、個展の開催以外にもTWSの様々なイベントに参加し、展示会開催後の活動の場を広げる機会も提供しています。

